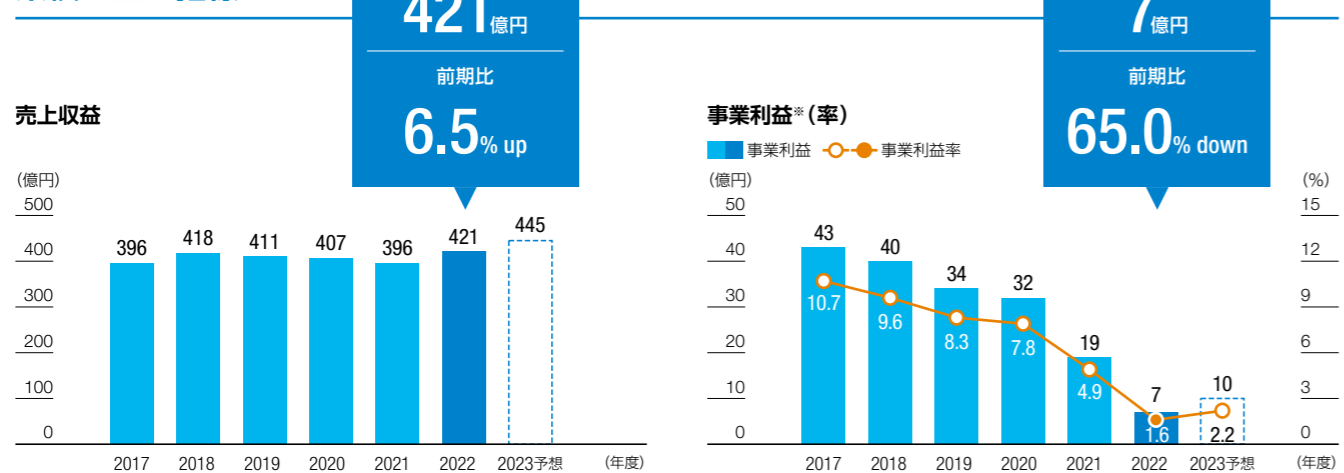


# 産業品事業

## 安心・安全・快適を一步先へ ～暮らしに貢献する商品とともに～

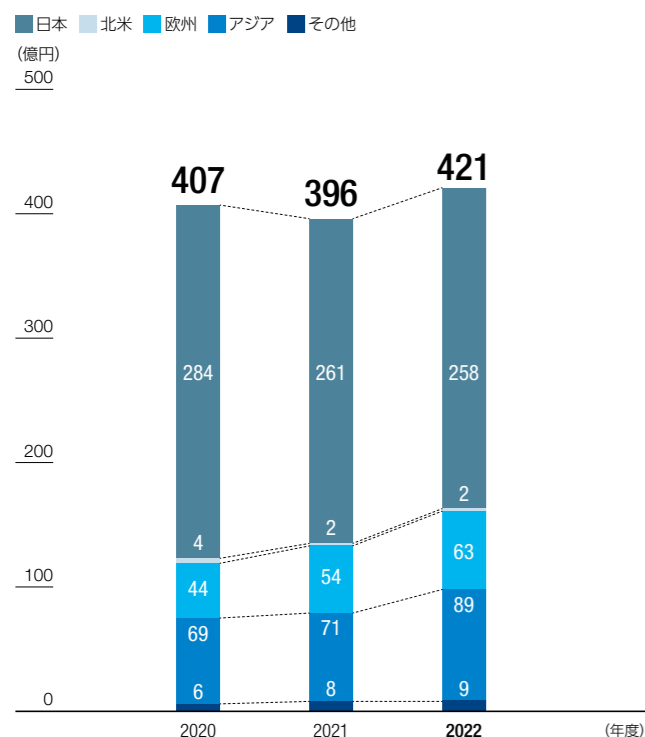
これまでの歩みで培ったゴム技術をベースに作り出される産業品の数々。世の中のニーズの広がりとともに、そのフィールドは産業インフラから医療、生活、ヘルスケア用品まで。先進のテクノロジーの可能性に、世界が注目しています。産業品事業はハイブリッド事業本部が管轄しています。

### 業績／主な指標



注：業績にはその他事業を含みます。

### 販売状況



<b>医療用ゴム製品</b> 	<b>ゴム手袋</b> 
<b>OA機器用ゴム部品</b> 	<b>制振ダンパー</b> 

### 主な事業の概況

#### ■ 医療用ゴム製品事業

医療用ゴム製品は継続的な市場拡大を背景に、日本国内・アジア、欧州いずれにおいても売上収益の規模は堅調に継続拡大しています。欧州では外部環境による影響を大きく受け厳しい状況でしたが、日本国内・アジアにおいてはバイオ医薬品市場での事業拡大を行い、着実に収益を伸ばしてきています。今後は新型コロナワクチンへの採用も予定されており、引き続き高付加価値製品の開発、供給能力の拡大により、市場規模の拡大に伴う収益力の強化に一層努めていきます。

#### ■ 制振ダンパー事業

制振ダンパー事業においては2021年比では増収となりました。日本国内では、住宅、ビル、橋梁に加えて、市場拡大が進んでいる物流産業において必須の自動物流倉庫へ、2022年より制振ダンパーを

展開することができました。トルコ地震の発生により世界的に地震への関心が高まっており、アジアエリアを中心とした拡販に引き続き注力していきます。

#### ■ その他

OA機器用ゴム部品事業において、世界的な半導体不足などのサプライチェーンの混乱の影響が継続していますが、新製品の立ち上げや為替の影響もあり2021年比で増収となりました。今後も、顧客ニーズを的確に汲み取った製品開発を進めていきます。インフラ関係のビジネスにおいては、スポーツ人工芝の新規受注の好調により、2021年比で増収となりました。ゴム手袋事業では、コロナ禍での需要拡大の反動により厳しい事業環境で推移し、2021年比で減収となりました。商品の機能特性において差別化された競争力のある事業に注力し、グローバルでの拡販に努めていきます。

### トピックス

#### 家庭用ゴム手袋「樹から生まれた手袋 シンプルカラーズ」を新発売 ～暮らしにフィットする「モノトーンホワイト」と「モノトーンブラック」の2色展開～

「樹から生まれた手袋 シンプルカラーズ」は、昨今の魅せるキッチンや水回りに調和しやすいカラーとして、「モノトーンホワイト」と「モノトーンブラック」の2色展開としました。「樹から生まれた手袋シリーズ」は天然ゴム製で土中の微生物により分解され自然に還るため環境に優しく、手が触れる部分の植毛には綿を使っており、手肌にも優しいゴム手袋です。また、食品衛生法\*に準拠しており、肉や魚などの調理に使えるうえ、抗菌加工を施しているため衛生的にも安心です。

お客様に分かりやすく商品をお届けするため、パッケージにはピクトグラム(グラフィックシンボル)を用いて、ゴム手袋の機能や特徴を一目で分かりやすく表現しました。柔らかい天然ゴム製で手肌にフィット、スタイリッシュなカラーで暮らしにフィット、そして地球にやさしいエコな天然ゴム手袋で、お客様の生活に安心・安全・快適をお届けします。

※ 食品添加物等の規格基準(昭和34年厚生省告示第370号に適合)



#### 制震ダンパー「MIRAIE」10周年「歴史的建造物の保全プロジェクト」書寫山圓教寺法華堂に制震ダンパーを設置

2022年12月、1000年以上の歴史を誇る書寫山圓教寺(兵庫県姫路市)の法華堂に当社の制震ダンパー設置工事を実施しました。

同ダンパーには当社独自の制振技術の結晶である「高減衰ゴム」を使用しており、これまで世界最大級の木造建築として知られる東本願寺や熊本城天守閣の耐震改修工事にも採用された実績があります。この度、同様の「高減衰ゴム」を使用する木造戸建て住宅向け制震ダンパー「MIRAIE」が販売開始10周年を迎えたことを記念する「歴史建造物の保全プロジェクト」の第一弾として、書寫山圓教寺法華堂へダンパーが設置されました。

今回の設置を皮切りに、新築・既存物件を問わず、地震から建築物を守る活動を進めていきます。



## 産業品事業

プラスの循環が次々に現れる、  
躍動感のある組織に変革

執行役員  
ハイブリッド事業本部長  
津崎 正浩

## 2023年は反転攻勢で臨む

2022年は業績面で大変厳しい1年となりました。コロナ禍の影響を多分に受け、また、原材料費の高騰、ロシア・ウクライナ情勢による地政学的緊張、海上運賃の高騰など、非常に厳しい外部環境でした。

ハイブリッド事業本部は、数多くの業界と接点があることを持ち味としており、多角的なビジネスの中でシナジー効果を生み、また補完し合える強みがあるにも関わらず、外部環境の急激な変化に十分対応することができませんでした。

こうした状況のなか、2023年は「反転攻勢」をテーマに、本部長方針として3つの軸を掲げました。

一つ目が「ビジネスを強く」、二つ目が「人と組織の成長」、最後が「組織風土の改善」です。この三位一体で事業運営を行っていきます。

「ビジネスを強く」では、安全・品質・コンプライアンスなどの事業の基盤部分における「凡事徹底」をすべての基本とし、これを磨き続けていきます。そして、提供価値の拡大と総コストの低減に取り組めます。

商品開発の方向性については、現地現物を大切に、お客様の困りごとをより早的確につかんでいきます。そしてサステナビリティ観点の取り入れやDXの活用等、住友ゴムだからこそできる付加価値の高い商品開発に取り組んでいきます。

ビジネスを強くするという点では、新中期計画の策定にあたってさまざまな対話会を実施しながら、大きな方向性をとりまとめることができました。新中期計画を力強く実行していくために、成長事業と構造改革事業の両方で計7つのプロジェクトを立ち上げ、本部

長直轄で変革を進めていきます。

「人と組織の成長」についてですが、ハイブリッド事業本部には経営人材の育成に適した土壌があると考えています。開発・製造・販売のオペレーションがビジネスチームという1つの組織の中にあることによって、多種多様な経験ができ、開発・製造・販売にまたがる知見を早い段階で身に付けることができるからです。人材が育つ土壌をベースに、独自の研修メニューの導入やキャリアビジョンに基づいた人事異動等、人材育成の取り組みを強化していきます。

「組織風土の改善」については、地に足のついた泥臭い活動を続けていきます。多様性を活かしながらも、目標達成のためにワンチームでまとまっていこうという風土の醸成、そして生産性を向上させていくために「1 on 1 ミーティング」や「チームビルディング」「語る場」「やめる・減らす・変える活動」などの活動を実施しています。加えて、「Bad News First/Fast」を合言葉に良いことも悪いこともオープンにしながら、健全な風土をつくり、オープンに議論していくことにも取り組んでいます。

その結果、さまざまな会議体におけるコミュニケーション改善が進み、部門や役職を超えて議論することが増えてきました。褒める文化、チャレンジする文化なども一段と浸透してきたとの手応えを感じており、これらが事業本部の新たな財産になると考えています。

この1年で、私の「ハイブリッド・ラブ」の想いは一層強まりました。社会貢献に密接に結び付いた付加価値の高い事業特性をベースに、3つの本部長方針のもと改革・改善を積み重ねていけば、新中期計画の目標も実現できると確信しています。

## 2つの成長事業(制振ダンパー、医療用ゴム製品)を中心とした取り組み

制振ダンパー、医療用ゴム製品事業は、社会的意義が非常に高く、また付加価値の高いビジネスです。

制振ダンパー事業では、戸建て住宅用制震ユニット「MIRAIE」が誕生して10年を越えており、これを改めて成長させていきたいと

考えています。

私たち住友ゴムは、阪神淡路大震災、東日本大震災という2度の大地震を経験しており、この事業を手がける社会的意義を強く感じています。販路、商品、ブランドという3つの軸で事業を拡大してい

きます。

販路軸では、これまでのお客様は大手ハウスメーカーや各地域の工務店が中心でしたが、広域の分譲住宅メーカーへの納入が進んでいます。住宅以外にも、ビル、橋梁、そして歴史的建造物にも展開してきました。今後はさらに、神社仏閣、自動倉庫などの分野にも拡大していきます。また、SDGsへの意識が一層高まる中で、木造ビルが増えることも予想していますので、新たな市場ニーズに応じた商品開発に取り組み、販路を拡大していきます。

一方、海外展開はアジアを中心に取り組みます。すでに導入実績がある台湾のほか、インドネシア、フィリピンなど地震が多い地域への展開を加速していきます。

商品/ブランド軸では、「MIRAIE」を中心に、お客様の事業価値向上につながる商品とサービスの開発を強化していきます。「MIRAIE」は国内新築木造住宅で供給実績ナンバーワンの制震ダンパーであり、2016年の熊本地震では装着物件における全壊・半壊ゼロの実績を持つ商品です。現在、「MIRAIE」の後継商品を開発中ですが、さらに商品力、サービス力、そしてブランド力に磨きをか

けていきます。

以上の取り組みにより、制振事業の売上収益を5年後に2022年比で60パーセント増加させる計画です。

医療用ゴム製品事業の売上は、日本、アジアで伸長しており、人々の健康を守るという社会的意義が非常に高い事業としてさらに拡大していきます。今後の事業展開では、高付加価値化と生産能力の拡大に注力していきます。

高付加価値化では、バイオ医薬品や新薬にも適合するゴム製品の売上比率を伸ばすために、難易度が高い開発に注力していきます。

医療用ゴム製品の日本での生産は、加古川と泉大津、市島の3拠点で行っていますが、生産能力の拡大を継続的に行っていきます。

OA機器用ゴム部品事業、生活インフラ(ゴム手袋、スポーツ人工芝など)事業についても、開発・製造・販売が三位一体となって、商品開発・サービス力の強化、海外拠点への生産移管や材料の現地調達を進めることによる総原価低減などで収益力を高め、安定的な価値提供に努めていきます。

## プラスの循環が至るところで生まれる躍動感のある組織に

ハイブリッド事業は、タイヤ、スポーツ以外の分野で、住友ゴムのゴム技術を活かし、人々の暮らしに安心・安全・快適、そしてヨロコビを提供していくことをビジョンとして掲げています。

学校、工場、病院、住宅、スポーツグラウンドなど人々の暮らしに直結する場所で、また医療、防災等の分野で、お客様にさまざまな価値を提供できることがハイブリッド事業の魅力です。

今後もハイブリッド事業でなければ提供できない価値を追求し、人々の暮らしに役立つ事業という軸はぶらさず、商品や事業の選択

と集中を適切に進めながら、提供価値の総量を増やしていきます。お客様やお取引先から「ありがとう」と喜んでいただき、働く社員も働きがいを感じることができる仕事を増やし、現在取り組んでいる構造改革をスピード感を持って行い、成長に向けたプラスの循環が次々に現れる躍動感あふれる組織にしていきます。そして、社員をはじめ関係する皆さんが誇りに思える事業本部にしていきたいと考えています。

### 制振ダンパー

国内新築木造住宅用No.1\*制震ダンパー  
MIRAIEで培った技術を軸に災害対策に貢献



MIRAIE



160% (2022年比)

2022 2027

制震ダンパー  
売上収益イメージ



歴史的建造物への  
貢献

- 新型MIRAIE開発による顧客価値の拡大
- ビル、橋梁、自動倉庫分野への事業拡大
- アジアを中心に海外市場を拡大
- 歴史的建造物の耐震性向上に貢献

### 医療用ゴム製品

独自の技術と高い品質で、  
人々の生活と命を守る医療分野に貢献





- 独自の付加価値ゴム製品開発によりバイオ医薬品市場での事業拡大
- 最新鋭生産ラインを拡充し生産能力拡大

※ 出典：外部機関調べ、(株)ジョッパーズアイ